

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1840号 2006年08月21日(月)

《 changing climate ? 》

今週は短めに行きましょう。先週一週間で世界の金融市場の様子は、かなり変わりました。少なくとも「当面は」というタームの範囲ですが、目立った特徴は

1. 日本を含めて、アメリカを中心に長期金利が大きく低下したし、先行き上昇懸念もかなり和らいだ
2. 外国為替市場では、全般的にドル安傾向となった。ドルは対円でも一時弱い展開を示したが、円はドル以外の通貨に対しては総じて弱い
3. ニューヨークでは先週一週間、株が上げ続けた。株式市場にあった「金利上昇懸念」が大きく後退しているのがその背景である
4. 商品市場では、原油先物を中心に相場が大きく下げるものが目立った。原油相場はザラ場では一時バレル70ドルの水準を割った

などである。一つの大きな背景は、アメリカで先週発表された二つの物価統計や、その他の景況指数が弱かったこと。インフレ懸念とそれに伴う金利引き上げ継続懸念はかなり後退し、先週末の段階で9月のFOMCによる利上げを見ている向きは、先物相場の動きから見て市場関係者の僅かに20%に過ぎないという。

まず、注目されていたアメリカの物価統計はどちらとも「インフレ圧力の低下」を示すものだった。米労働省が15日に発表した7月の卸売物価指数(1982年=100、季節調整済み)は、変動幅が大きい食品とエネルギーを除いたコア指数が0.3%低下となった。

市場の事前の予想は、コア指数の上昇を予想していた。乗用車や家電製品などの価格下落が主因。これは昨年10月以来9か月ぶりのマイナス。全体は161.8で、前月比0.1%上昇。

またそれから一日遅れて発表になった7月小売物価指数は、全体は0.4%の上昇で予想通りだったが、コア指数は0.2%の上昇で、これは予想(0.3%アップ)を下回った。つまり、物価状況を示す二つの指標が揃ってアメリカでの物価上昇圧力の少なくとも当面の緩和を示したのである。弱い物価指標が、商品相場の下落と同時に発表されたことが、ニューヨークの株色相場の堅調にも繋がった。

FOMC は、直近の 8 月 8 日の会合で 17 回続けた FF 金利の据え置きを発表し、その後に公表した声明で

「inflation pressures seem likely to moderate over time, reflecting contained inflation expectations and the cumulative effects of monetary policy actions and other factors restraining aggregate demand.

と指摘していたが、先週発表された米経済指標の動きは全体的にはそういう方向にある。この声明が出たときには、「時期尚早」と思ったが、必ずしもそうではないようだ。FRB の認識がその後の統計で証明されつつあることも、市場関係者には「中央銀行は、きちんと市場の動きを見ることが出来ている」という安心感につながっている。

また指標が多く発表された中で注目された住宅着工や着工許可件数も、市場の予想を下回る数字だった。

「Housing starts fell by 2.5% to a seasonally adjusted 1.795 million annual rate, the slowest pace since 1.782 million in November 2004, the Commerce Department said Wednesday. Building permits dropped the ninth time in a year. The median estimate of 22 economists surveyed by Dow Jones Newswires had housing starts down 2.2% to a 1.810 million annual rate.

となっている。住宅市場の「徐々なるクーリング・ダウン」も FRB が見通していた通りの展開である。

この結果、アメリカの金利は大きく下げている。一時 5% に乗っていた米指標 10 年債の利回りも、金曜日の夕方の段階では 4.84% にまで下がってきている。石油がこれだけ上がってもインフレが世界的に高まらない事態は、戦後では初めて。IT 製品や、IT 関連製品などでのデフレ圧力の強さが、原材料価格高騰から来るインフレ圧力をかき消している印象が強い。

石油価格の上昇は今後「delayed effects」として物価に影響があるのかもしれないが、同じように石油価格が上がった 70 年代、80 年代の常識は通じない世界になりつつあるようで、これは今後の債券相場、株式相場、それに為替相場の動きに影響しよう。外国為替市場の動きに関しては、筆者は大枠としての円安傾向は続くと見ている。

今週の主な予定は以下の通り。

8 月 21 日 (月)

7 月コンビニエンスストア売上高

麻生外務大臣が総裁選への出馬を正式表明

8 月 22 日 (火)

6 月全産業活動指数

8月23日(水)	米アトランタ連銀総裁講演 7月貿易収支 米MBA住宅ローン申請指数 米7月中古住宅販売
8月24日(木)	7月企業向けサービス価格指数 米7月耐久財受注 米7月新築住宅販売
8月25日(金)	8月都区部・7月全国消費者物価指数 米バーナンキFRB議長講演

《 have a nice week 》

先週は終戦の日が入っているというのに、騒々しい一週間でしたね。特に週の前半がそうだった。停電もあったし、ロシアの警備艇による日本の漁船銃撃事件もあった。相変わらず暑いのですが、朝などほのかに秋の香りがする。

それにしても今年の夏は高校野球が面白い。逆転が多く、HRが非常に多く出ている。既に58本ですか。特に木曜日の帝京対智弁和歌山など、見ていて呆れました。もうアンビリバゴ。その後も良い試合が続いている。

日曜日の早稲田実業対駒大苫小牧の決勝は、一転して投手戦。まったく互角でしたな。斉藤投手が、「こういうこともあると思っていました」というのには、「洞察力のある投手だ」と思いました。一方の田中もがっしりしていて、簡単には崩れそうにない。

決勝戦の再試合は37年ぶりだとか。私としては、東西の東京対決ということで決勝戦を見るのもいいなと思っていましたが、帝京が負けたので早実だけが残っている。どちらが勝つか知りませんが、駒大苫小牧が勝てば「3連覇」。考えてみれば、毎年選手が替わる高校野球で「3連覇」は、ジャイアンツの9連覇より凄いことかも知れない。9連覇にはずっと王、長島が居たわけですから。

それでは、皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》